

# 平子友長先生の研究業績

## A. 著書（単著）

(1991)『社会主義と現代世界』青木書店

## B. 著書（共編著）

(2013)「マルクスのマウラー研究の射程—MEGA 第 IV 部門第 18 巻におけるマルクスのマウラー抜粋の考察—」および「あとがき」、大谷禎之介、平子友長（編）『マルクス抜粋ノートからマルクスを読む』桜井書店、pp.217-257, pp.339-345.

## C. 共著

(1979)「マルクスの経済学批判の方法と形態規定の弁証法」、岩崎允胤（編）『科学の方法と社会認識』汐文社、pp.109-172.

(1983)「実践の哲学—グラムシ」、唯物論研究協会（編）『哲学を学ぶ人のために』白石書店、pp.286-289.

(1984)「近代市民社会理論の問題構成」、佐藤和夫（編）『市民社会の哲学と現代』青木書店、pp.200-238.

(1989a)「現代社会における人間の＜豊かさ＞—史的唯物論の豊富化のために」、東京唯物論研究会（編）『豊かさを哲学する』梓出版社、pp.186-234.

(1989b)『『資本論』の弁証法の基本性格—転倒の論理—』、岩崎允胤ほか（編）『弁証法と現代』法律文化社、pp.108-142.

(1997)「解説 マルクスとヴェーバー」、『高島善哉著作集 第7巻 マルクスとヴェーバー』こぶし書房、pp.451-489.

(2000a)「社会科学の方法意識 『マルクスとヴェーバー』の意義について」、渡辺雅男（編）『高島善哉 その学問的世界』こぶし書房、pp.122-154.

(2000b)『『資本論』の弁証法』、服部文男、佐藤金三郎（編）『資本論体系 第1巻 資本論体系の成立』有斐閣、pp.354-371.

(2006)「戦前日本マルクス主義の到達点—三木清と戸坂潤—」、山室信一（編）『岩波講座 「帝国」日本の学知 第8巻 空間形成と世界認識』岩波書店、pp.111-155.

(2007)「西洋近代思想史の批判的再検討—カント最晩年の政治思想におけるロック批判の脈絡—」、川越修他編『思想史と社会史の弁証法』御茶の水書房、pp.5-30.

(2008)「三木清と日本のフィリピン占領」、清真人、津田雅夫、亀山純生、室井美千博、平子友長著『遺産としての三木清』同時代社、pp. 303-363.

(2009)「ハバーマス『カント永遠平和の理念』批判」、藤谷秀・尾関周二・大屋定晴（編）『共生と共同、連帯の未来』青木書店、pp. 64-84.

(2013)「戦前日本マルクス主義哲学の遺産とそのアクチュアリティ—三木清と戸坂潤—」、岩佐茂・島崎隆・渡辺憲正（編）『戦後マルクス主義の思想 論争史と現代的意義』社会評論社、pp.224-251.

(2015a)「戸坂潤における実践的唯物論構想」、藤田正勝（編）『思想間の対話 東アジアにおける哲学の受容と展開』法政大学出版局、pp.240-258.

(2015b)「第1章 廣松版の根本問題」、「第4章 デジタル版編集の合意事項」（いずれも大村泉、渋谷正との共同執筆）、大村泉、渋谷正、窪俊一（編著）『新MEGAと『ドイツ・イデオロギー』の現代的探求』八朔社、pp.19-51, pp.76-79.

#### D. 論文（和文）

(1976)「マルクスにおける共産主義理念の形成とその科学的基礎づけ」、『哲学の探求』第4号、pp.32-49

(1977)「マルクスの経済学批判の方法と弁証法」、東京唯物論研究会『唯物論』第8号、1977年11月、pp.43-70.

(1980)「マルクスの経済学批判の展開方法」、『経済理論学会年報』第17集

(1984a)「疎外論と物象化論」、『経済理論学会年報』第21集

(1984b)「ヘーゲル『精神現象学』における疎外論と物象化論（1）」、北海道大学『経済学研究』第34巻2号、1984年9月、pp.37-49.

(1985)「直接的生産過程における疎外論の発展」、札幌唯物論研究会『札幌唯物論』第30号、pp.3-18.

(1995)「バーガー『社会学への招待』の批判」、『現代社会理論研究』第5号、人間の科学社、pp.57-73.

(1996)「日本人の時間理解—ひとつの比較文化論の試み」、『一橋大学社会学部特定研究 地域社会の国際化』、pp.5-21.

(1996)「アナル派の歴史学と歴史哲学の可能性」、『唯物論研究年誌』創刊号、40-69.

(1997)「歴史における時間性と空間性—和辻哲郎、ハイデガーおよびブローデル—」、北海道大学『経済学研究』第47巻2号、pp.188-202.

(1998a)「和辻哲郎の風土論における日本認識とオリエンタリズム」、『共同探求通信』第13号、pp.88-99.

(1998b)「市民社会概念の歴史」、『法の科学』（民主主義科学者協会法律部会）第27号、pp.191-196.

(2000)「解釈学の批判的継承に向けて」、一橋大学研究年報『社会学研究』第38号、2000年1月、pp.131-210.

(2002a)「三木清の思想のアクチュアリティ」、『共同探求通信』第19号、pp.2-16.

(2002b)「三木清『構想力の論理』の論理構造』、『共同探求通信』第19号、pp.136-176.

(2003)「ステイト・ネイション・ナショナリズムの関係—一つの理論的整理」、唯物論研究協会『唯物論研究年誌』第8号、pp.41-71.

(2004)「グローバリゼーションという現実—哲学に突きつけられた課題」、日本哲学会『哲学』第55号、2004年4月、pp.4-19.

(2005a)「三木清と読書」、一橋大学研究年報『社会学研究』第43号、pp.95-142.

(2005b)「今日の環境問題の本質と環境哲学の課題」、『一橋論叢』第133巻4号、pp.119-13

(2005c)「ベンヤミン『歴史の概念について』最初の六テーゼの翻訳について」、立命館大学国際関係学会『立命館国際研究』第18巻1号、pp.1-22.

(2005f)「カント『永遠平和のために』のアクチュアリティ」、東京唯物論研究会『唯物論』第79号、pp.27-42.

(2007a)「西洋における市民社会の二つの起源」、一橋大学大学院社会学研究科『一橋社会科学』創刊号、pp.23-66.

(2007b)「廣松渉版『ドイツ・イデオロギー』の根本問題」、マルクス・エンゲルス研究者の会編集『マルク

- ス・エンゲルス・マルクス主義研究』第 48 号、八朔社、pp. 97-121.
- (2009a) 「近代自然法思想の再評価—自然法と先住民問題—」、名古屋哲学研究会『哲学と現代』第 24 号、pp. 37-50
- (2009b) 「MEGA 第 1 部門第 5 巻付録『ドイツ・イデオロギー』CD-ROM 版の編集」、マルクス・エンゲルス研究者の会（編）『マルクス・エンゲルス・マルクス主義研究』第 51 号、八朔社、pp. 79-98
- (2010) 「昭和思想史におけるマルクス問題—『ドイツ・イデオロギー』と三木清」、日本哲学史フォーラム（編）『日本の哲学』第 11 号、昭和堂、pp.92-105
- (2013a) 「マルクス物象化論の基礎カテゴリーとその理論構成」、環境思想・教育研究会（編）『環境思想・教育研究』第 6 号、pp.107-113
- (2013b) 「ザスーリッチへの手紙」、『季報 唯物論研究』第 124 号、pp.120-134
- (2013c) 「三木清『構想力の論理』における構想力の概念とその活用」、日本哲学史フォーラム（編）『日本の哲学』第 14 号、昭和堂、pp.62-76
- (2014a) 「三木清の思想の基本構造と問題点」、『季論 21』第 24 号、pp.169-179
- (2014b) 「ミヒャエル・ハインリッヒによる『資本論』の新しい読み方—『価値の科学』の論理構造」、唯物論研究協会『唯物論研究年誌』第 19 号、pp.163-177

## E. 論文（欧文）

- (1983) Versachlichung und Verdinglichung in ihrer Beziehung zur Hegelschen Dialektik. Zur Erschliessung der Logik der Verkehrung, Hokudai Economic Papers, Vol.12, pp.65-85.
- (1985) Versachlichung und Verdinglichung in der Phänomenologie des Geistes Hegels, Hokudai Economic Papers, Vol.14, pp.93-110.
- (1987) Der fundamentale Charakter der Dialektik im Kapital. Zur „Logik der Verkehrung“, S. Boenisch, F. Fiedler, Ch. Iwasaki (hrsg.), Marxistische Dialektik in Japan. Beiträge japanischer Philosophen zu aktuellen Problemen der dialektisch-materialistischen Methode, Dietz Verlag Berlin, S.105-123, S.237-242.
- (1990a) Bürgerliche Gesellschaft und Staat. Untersuchungen zur Klassischen Politischen Theorie der Moderne, Economic Journal of Hokkaido University, Vol. 19, pp.53-85.
- (1990b) Die Grundzüge des japanischen Faschismus und die Kriegsverantwortlichkeit japanischer Philosophen während der Kriegszeit, Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol. 22-1, pp.19-25.
- (1992) Die Modernisierung Japans und die Modifikation der Tradition. Kritik an Tominagas „Modernisierungstheorie“, Mesotes. Zeitschrift für philosophischen Ost-West-Dialog, Wien, S.294-311.
- (1993) Die rationale Betriebsfuehrung und die Produktivkraft des Kapitals, Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol.25, No. 1, pp.7-23.
- (1996) Time and Temporality from a Japanese perspective, D. Tiemersma and H.A.F. Oosterling (eds.), Time and temporality in intercultural perspective, Editions Rodopi B.V., Amsterdam, pp.93-104.
- (1997) Materialismus und Dialektik bei Marx, Friedrun Quaas u. Georg Quaas (hrsg.), Elemente zur Kritik der Werttheorie, Peter Lang, Berlin. S.35-51.
- (2000) Zeitlichkeit und Räumlichkeit in der Geschichte: Watsuji, Heidegger und Braudel, Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol. 41-1, pp.17-26.

- (2002) Philosophy and Practice in Marx, Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol.34-2, pp.47-57.
- (2003) Marx on Capitalist Globalization, Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol.35-1, pp.11-16.
- (2003) Zeitlichkeit und Räumlichkeit im Hinblick auf die traditionelle japanische Zeitmessung, Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol.35-2, pp.47-62.
- (2004) Contradictions of Contemporary Globalization: How Socialist Philosophy Should Cope with it? 北京大学鄧小平理論研究中心編 (趙存生、王東 主編) 『鄧小平与当代中国和世界』北京大学出版社、pp.707-724.
- (2005) Contradictions of Contemporary Globalization: How is Socialist Philosophy to cope with it? Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol.37-2, pp.53-62.
- (2008) Die Grundfehler der Hiromatsu-Edition der Deutschen Ideologie. Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol.40-1, pp.59-72.
- (2009) Die neuesten Tendenzen der „Deutschen Ideologie“ Forschung in Asien – Das Internationale Symposium in Nanjing und die chinesische Übersetzung der japanischen Hiromatsu-Ausgabe der „Deutschen Ideologie“ –, Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol. 41-2, pp.49-57.
- (2010a) Neue Wende der Geschichtsauffassung von Marx nach 1868 - Seine Auseinandersetzung mit Maurer – (the first version), Hamid Reza Yousefi, Hermann- Josef Scheidgen, Henk Oostering (Hrsg.), Von der Hermeneutik zur interkulturellen Philosophie. Festschrift für Heinz Kimmerle zum 80. Geburtstag. Verlag Traugott Bautz, Nordhausen. S.195-210.
- (2010b) Die Wende in Marx' Geschichtsauffassung nach 1868 – Seine Auseinandersetzung mit Maurer – (the second improved version). In: Hitotsubashi Journal of Social Studies, Vol. 42-2, pp.25-35.
- (2010c) Neue Akzente von Marx' Forschungen nach 1868 – Exzerpte aus den Werken von Georg Ludwig von Maurer, Carl-Erich Vollgraf, Richard Sperl und Rolf Hecker (Hrsg.), Beiträge zur Marx- Engels- Forschung Neue Folge 2010. Das Kapital und Vorarbeiten Entwürfe und Exzerpte, Argument Verlag, Hamburg. S.157-171.

## F. 論文 (中国語)

- (2005) 「当今環境問題の本質及環境哲学的課題」、Yuanzheng Pang (編) 『全球下背景の環境與發展』当代世界出版社、pp.3-35.
- (2006) 「馬克思關於資本主義全全球化的論述」、全国中文核心期刊他 (編) 『馬克思主義与現實』2006 年第 5 期、pp.46-49.
- (2007) 「馬克思对資本主義認識的嬗變」、楊春貴主 (編) 『中日学者論馬克思主義哲学的当代形態』中共中央党校出版社、pp.89-105.
- (2007) 「MEGA2 第 I 部門第 5 卷付録『德意志意識形態』CD-ROM 版的編集問題」、全国中文核心期刊他 (編) 『馬克思主義与現實』2007 年第 6 期、pp.59-72.
- (2010) 「梁贊偌夫版<<德意志意識形態>>和三木清」、清華大学 『<<德意志意識形態>>文学学及其思想研究会 議論文集』、pp.78-85
- (2012a) 「黑格尔<<精神現象学>>中的“Versachlichung”和“Verdinglichung” (李乾坤訳)、張一兵 (主編) 『社会批判理論紀事』第 5 輯、江芳人民出版社、pp.230-245.
- (2012b) 「物象化 (Versachlichung) 与物化 (Verdinglichung) 同黑格尔弁証法的聯系 (李乾坤訳)、張一兵 (主編) 『社会批判理論紀事』第 5 輯、江芳人民出版社、pp.211-229.

- (2013)「馬克思的毛勒研究—対 MEGA IV/18 卷馬克思的“毛勒摘録“的考察」『哲学動態』2013 年第 12 期
- (2014a)大村泉、渋谷正、平子友長「新 MEGA『德意志意識形態』之編集与広松版的根本問題」(彭曦訳)、叢本、韓立新他編集『当代学者視野中的馬克思主義哲学 日本学者卷』北京師範大学出版社、pp.452-479.
- (2014b)「“物象化”与“物化”同黑格尔弁証法的聯系」(李乾坤訳)、叢本、韓立新他編集『当代学者視野中的馬克思主義哲学 日本学者卷』北京師範大学出版社、pp.507-520.

#### G. 論文 (韓国語) (降順)

- (2012)타이라코 토모나가 (平子友長)「제 10 장 소화 (昭和) 사상의 마르크스 문제—『독일 이데올로기』와 미키 키요시 (三木清) —」、이광래·후지타 마사카쓰 편『서양철학의 수용과 변용 -동아시아의 서양철학 수용의 목제-』경인문화사、pp.207-226 (韓国語)、pp.396-413 (日本語) (李光來·藤田正勝編『西洋哲学の受容と変容—東アジアにおける西洋哲学受容の問題—』景仁文化社)

#### H. 翻訳

- (1978)共訳 (資本論草稿集翻訳委員会訳) マルクス『資本論草稿集』第 4 卷「経済学批判 (1861-1863 年草稿) 第 1 分冊」大月書店
- (1981)共訳 (資本論草稿集翻訳委員会訳) マルクス『資本論草稿集』第 1 卷「1857-1858 年の経済学草稿 第 1 分冊」大月書店
- (1984)共訳 (資本論草稿集翻訳委員会訳) マルクス『資本論草稿集』第 3 卷「経済学草稿・著作 1858-1861 年」大月書店
- (2001)共訳 (中村好孝との共訳) エレン・メイクシス・ウッド『資本主義の起源』こぶし書房
- (2015)共訳 (平子友長監訳、明石英人、佐々木隆治、斎藤幸平、隅田聡一郎訳) ケヴィン・B・アンダーソン『周縁のマルクス』社会評論社